



広い心をもって

2 ブランコ乗りとピエロ



今年も、都にサーカスがやってきた。

満員のサーカス小屋に、開幕を告げるファンファーレが鳴りひびいた。大王アレキスを招いての、サーカスの初日。ゲートを走り出る馬の衣装も、一段ときらびやかだった。きれいな曲芸で観客を楽しませた馬たちがゲートの中に消え去ると、サーカスの花形、空中ブランコが始まった。

ブランコ乗りたちが空中をまう。二人組み、三人組みと技が高まるにつれ、拍手は大きくなった。演技を終えて、高い舞台から手をふるブランコ乗りたちに、観客はおしみなない声援をおくっていた。そのとき、一人が再びブランコに飛び乗った。(いったい何が始まるのか。)

観客の目は、そのブランコ乗りにくぎづけになった。

(サムのやつ。あれほど言っておいたのに。)

ゲートのカーテンの隙間から、ピエロは、こみあげるいかりをこらえながらブランコを見上げていた。

自分とはちがう
考え方を受け入れる
ことって難しいよね。



① ファンファーレ

お祝いの式などとしてトランペットや太鼓で演奏する短い曲。

② ゲート

門。出入り口。

③ 花形

その分野で人気があり、注目を集めている人や事柄。

④ おしみなない声援

ここでは、大きな声援という意味。

ピエロのおだやかな目が、サムの目を見つめた。ピエロは続けた。

「サムは、カいっぱいがんばっている。だから、観客の心を打つのだということがわかったよ。これから私は、サムを手本に努力していくつもりだ。サムのおかげで、今日はいい演技ができた。でも、サム。このことだけは、君にもわかってほしい。おたがいに、自分だけがスターだという気持ちは、捨てなければならぬ」と思うんだ。このサーカス団のためにも。」

ピエロの言葉が、うつむいているサムの耳に強く残った。

夜がふけても、団員たちが引き上げていったひかえ室に、サムとピエロの声だけがいつまでも聞こえていた。自分だけがスターだという気持ちを捨てた二人にとって、一緒にいることは、少しもつらくなかった。

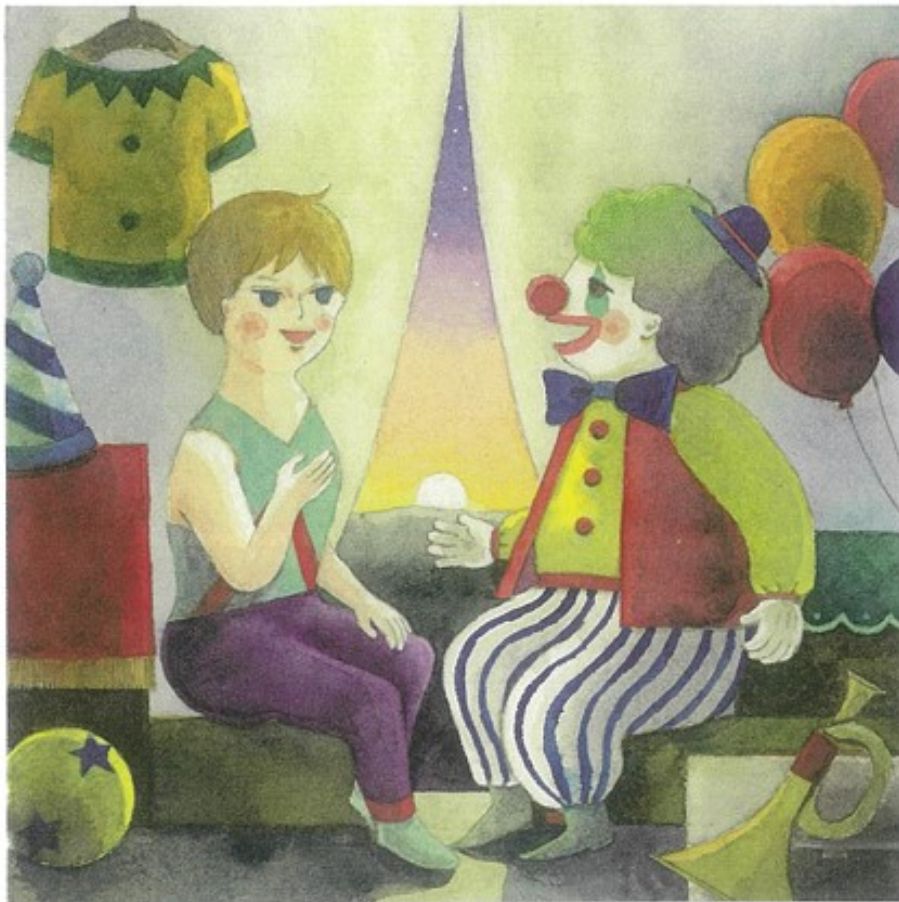
いつしか、朝日が二人の顔を照らしていた。

一か月が過ぎ、都でのサーカスも、最終日をむかえた。

ブランコ乗りが空中をまう。その中に加わった

15

10



5

⑧夜がふける
夜になって時がたつ。

大歓声おほいどの中、サムはブランコを止め、その上でゆっくりと逆立ちを始める。あとは、息もつかせぬ技わざの数々。手てをかえ品しんをかえて、観客を楽しませた。サムがブランコの柱はしらを降りたとき、すでに約束の一時間は過ぎようとしていた。

⑤手をかえ品をかえ
いろいろな方法で。

大王アレキスの一行は、拍手あしひらに送られて予定どおりにサーカス小屋をあとにした。拍手の音が遠くに聞こえるゲートのおくの通路で、演技を終えてぐったりしているサムと、舞台ぶたいへ向かうピエロがすれちがった。ピエロは一瞬立ち止まりかけたが、足早にゲートへと走っていった。

ピエロは、いつものような陽気なしぐさで舞台ぶたいに立った。かれの曲芸はいつも以上に力が入っているように見えた。

つなわたり。ライオンの火の輪くぐり。アクロバット。サーカスの初日は大盛況おほいどで幕を閉じた。

⑥大盛況おほいど
とても多くの人が集まり、盛んな様子。

しかし、ひかえ室に集まった団員たちの顔に、笑顔えがほはなかった。団員たちは、サムに対するいかりと、ピエロに対する同情で固く口を閉ざしていた。

しばらくして、サムが、机つくえをたたいて立ち上がった。

「なぜ、だまっているんだ！ 言いたいことはわかっているよ。しかし、サーカスは大成功じゃないか。私はこのサーカスのために、夢中になって演技をしたんだ。その私の何が悪いというんだ。」

団員たちは、だれも答えなかった。

(無視むしされている。)

そう思うと、サムはいつそう腹はらを立て、椅子いすをけりたおした。

そのとき、部屋へやの片隅かたぐもにいたピエロが立って、静かに話し始めた。

「今日けふ、ゲートゲートに向かう通路みちでサムとすれちがったんだ。演技を終えたばかりのサムを見たのは初めてだった。かたて息かたていきをしているサムの顔は、真っ青まっあざで、そばにいる私わたしにも気づかないほど、つかれはてていた。」

(いったい、何を言いだすのか。)

サムは、ピエロの横顔をにらんだ。

「そのサムの姿すがたを、私わたしは、今も思い出していたんだ。私わたしも目だちたかった。10

最初はサムをブランコから引きずり降ろおろしたいほどくやしかった。でも、

カーテンの隙間すきまから見たサムの演技と、終わったあとのつかれはてた姿すがたを、何度も何度も思い出しているう

ちに、私わたしの心の中から、なぜかサムをにくむ気持ちきもちが、消えてしまった

のだ。」

15

5

②かたて息かたていきをする
かたを上下じやうげに動かして、はあはあと苦しうな息いきをする。

ピエロのおだやかな目が、サムの目を見つめた。ピエロは続けた。

「サムは、カいっぱいがんばっている。だから、観客の心を打つのだということわかったよ。これから私は、サムを手本に努力していくつもりだ。サムのおかげで、今日はいい演技ができた。でも、サム。このことだけは、君にもわかってほしい。おたがいに、自分だけがスターだという気持ちは、捨てなければならぬ」と思うんだ。このサーカス団のためにも。」

ピエロの言葉が、うつむいているサムの耳に強く残った。

夜がふけても、団員たちが引き上げていったひかえ室に、サムとピエロの声だけがいつまでも聞こえていた。自分だけがスターだという気持ちを捨てた二人にとって、一緒にいることは、少しもつらくなかった。

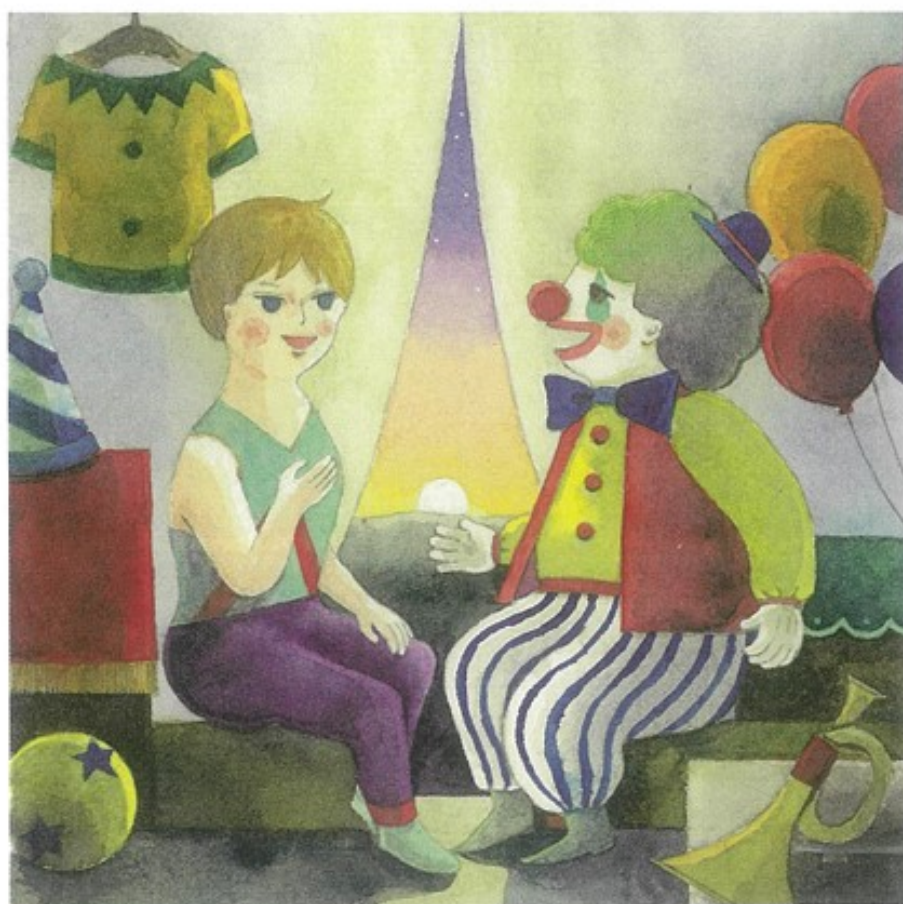
いつしか、朝日が二人の顔を照らしていた。

一か月が過ぎ、都てのサーカスも、最終日をむかえた。

ブランコ乗りが空中をまう。その中に加わった。

15

10



⑧夜がふける
夜になって時がたつ。

考えよう

● サムの長い演技が終わり、大王アレキスがサーカス小屋から帰ったあと、舞台へ向かうピエロは、どのような気持ちだったでしょう。

★ ピエロの心から、サムをにくむ気持ちが消えてしまったのは、どうしてでしょう。

どうして、
ピエロの気持ちが
変化したのかな。



5

つなげよう

● 自分が正しいと思う意見を相手が受け入れてくれないと感じたとき、どのように考え、行動しようと思いますか。また、それはどうしてですか。

5

深めよう

● これまで、友達と意見が対立したとき、どのように解決してきましたか。ふり返って話し合いました。

しっかり
考えられた

新しく気づいた
ことがあった

大切にしたい
ことがわかった

ピエロが、こっけいなしぐさをして、わざと落下する。観客から大きな笑い拍手。ブランコ乗りとピエロの共演も、今日が最後だった。全てを終えたひかえ室は、団員たちの明るい笑い声に包まれていた。そこには、大王アレキスから届けられた料理とシャンペンが、所せましと並べられていた。

⑨ シャンペン

フランスのシャンパーニュ地方特産の発泡性のワイン。おめでたいときなどによく飲まれる。

⑩ 所せまし

場所がせまく感じられる様子。

永井裕 作 / 佐藤文音 絵